

## 2020 年度日本バングラデシュ協会事業報告書

### I. 2020 年度日本バングラデシュ協会事業報告書

1. 本協会は、2014 年の発足以来、堀口松城初代会長（現顧問）及び同会長を引き継いだ大橋正明会長（現副会長）の指導の下、順調な発展を遂げた。昨年 7 月に大橋会長から引き継いだ後、朝田照男名誉会長他の皆様の助言を得つつ、日バ両国の友好親善、相互理解の増進を目標として協会の活動の充実に努めた。昨年 9 月に着任したシャハブッディン・アーメド駐日大使には、当協会の特別顧問に就任いただくと共に、駐日大使館との間で協力関係を深めることを目指した。

2. 2020 年度は、バングラデシュの多様な側面を紹介し啓発するため、一旦延期を余儀なくされた石川信克日本結核予防会結核研究所名誉所長による講演会を含む 2 回の講演会、5 回の企業情報交換会を行い、メルマガの発行を続けた。感染防止対策のため、講演会は全てオンラインにて開催し、4 回の企業情報交換会もオンラインで開催し、12 月の一般公開の企業情報交換会については会場参加とオンライン参加を併用し開催した。コロナ禍のため会員間の親睦を深める懇親会を一度も開催できなかった点は残念である。

(1) 講演会：本年 3 月に開催されたモンズルル・ホク顧問による講演会は駐日大使館との共催イベントとなった。大使館は「1971 年 3 月 7 日の建国の父ムジブル・ラーマン首相による歴史的演説」に関するビデオを上映し、バングラデシュ独立 50 周年に相応しいイベントとなった。なお、昨年度来の伊藤隆史監事のご尽力により、過去に実施した講演会の殆どすべてが会員向けにビデオ公開されることとなった。

(2) 企業情報交換会：昨年夏から秋にかけ、企業情報交換会を 3 回開催し、コロナ禍の下で日本企業にとり有益な情報を共有し合える場を設定し続けた。伊藤直樹駐バングラデシュ大使などの講師陣の選定に加え、現地日系病院における医療体制にも焦点を当てるなど、法人会員のニーズに的確に応えた。12 月の企業情報交換会は、感染対策を講じた会場への参加者に加え、ダッカを含むオンライン参加者で総計 320 名という過去最多の参加者を得た（個人会員も参加可とした）。本年 3 月の企業情報交換会は、セミナー形式の会合に加え、経済産業省との対話という 2 本立てで開催された。オンラインに伴う諸課題克服を含め企業部会委員長の平石公宣理事及び丸久株式会社の尽力無しには実現し得なかった。

(3) メルマガ：2020 年はムジブル・ラーマン生誕 100 周年であり、また 2021 年・2022 年とバングラデシュ独立・日バ国交樹立 50 周年を迎えることを念頭においた企画を継続すると共に、最近では若者、女性、文化、生活、地方の視点を積極的に取り入れることとしており、バングラデシュで子供や青年を支援する団体の関係者、ダッカ日本人学校を含む日本人会関係者、永住者からの寄稿も掲載した。本協会発足以来 87 号を迎えたメルマガの編集運営体制の強化のため、メルマガ編集委員会の立ち上げを目指した。

(4) 日バ国交樹立 50 周年を明年に控え、本協会としてどのような取り組みを目指すかに関し、理事会、定例会において意見集約を図った。

3. 本協会の個人会員は 2020 年度末で昨年度末より 20 名減の 116 名（内、学生会員 3 名）とな

った。転勤や高齢による健康問題等により退会した会員が増えたこと、大学卒業後に連絡が取れない学生会員が多かったことが一因である。法人会員は、本年3月末時点で2法人の増加で50法人(内、非営利法人会員6法人)であったが、2020年度中に法人会員勧誘を積極的に行ったことに加え、上述の企業情報交換会の活動が功を奏し、本年4月には新たに13法人増え63法人となった。個人会員も本年4月までに、バングラデシュ在住者他からの入会申込が続き、新たに9名増え125名となった。本協会の裾野を広げるための取り組みは引き続き重要である。現在、ダッカ・ジェトロ事務所のご理解の下、同事務所内に本協会への入会案内が置かれている。今後とも、外部からの照会に対し迅速に対応できるような体制を整備する必要がある。

4.バングラデシュを取り巻く環境に関し、治安情勢については、外務省渡航情報における同国の危険度は昨年度末から変更はないが、新型コロナウイルス感染拡大と両国の水際対策の導入に伴い、進出日本企業の活動に大きな制約が課された。昨年春に駐在員を一時撤収させた日本企業の多くは、夏以降徐々に駐在員を戻したが、現状でも感染対策を徹底させるなど予断を許さない状況が続いている。永住者を含む日本人社会もコロナ禍の下で様々な苦労を味わっている。バングラデシュ全体では、特に貧困層を中心にコロナ禍の影響が及んでいると見られる。2月以降に急転しているミャンマー情勢が人道的観点から深刻度を増しているロヒンギャ難民問題にどのような影響を及ぼすかも注意を要する。なお、2月、愛媛県今治市において、バングラデシュ人船員20名余りに感染者クラスターが発生した際、現場で診察に当たったバングラデシュでNGOの勤務経験のある日本人医師から大橋副会長宛に協力要請があったので、愛媛県在住の元青年海外協力隊員の助けを受けて、近くの船員が好むインド料理提供のため6万4千円を支援した。

5.近年導入された賛助会員制度だが、年度末時点で個人賛助会員4名、法人賛助会員2社である。今後、この制度の更なる活用を図って行きたい。

6.理事会及び事務執行定例会の殆どはオンライン開催となった。5年前より導入された事務執行定例会は計7回開催され、協会運営の迅速化に寄与した。理事会は計7回開催され、協会運営に係る諸事項について各担当理事を定めて管掌し、理事の職務が法令及び定款に適合することを確保しつつ、その他一般社団法人の業務の適正を確保するための体制を保ち、業務を適正に実施した。理事会及び事務執行定例会の運営には事務局の役割が重要であったが、本協会発足以来、昨年7月に監事に異動するまでの5年間に亘り、事務局長の要職を務めた河合卓雄氏が本年2月逝去された。また、本協会発足時からメルマガ・広報担当理事として活躍された野呂元良氏も本年2月他界された。心からの哀悼の意を表したい。

7.財務的に本協会の収入は374万円、支出は206万円であり、前年度からの繰り越しと併せ本協会の資産は595万円となっている。2020年度、堀口松城顧問、早川鎮理事(本年1月に逝去された早川元枝様の御遺志)他の皆様よりご寄付をいただいた。これまでにご寄付をいただいた皆様方のご厚情に深謝したい。

# 日本 Bangladesh 協会 2020 年度事業一覧表

2021 年 3 月 31 日

## 1. 講演会等協会事業

2020 年

- (1) 10 月 16 日 第 34 回 「Bangladesh の結核対策の発展」(オンライン開催)  
石川 信克 公益財団法人結核予防会結核研究所元所長

2021 年

- (2) 3 月 7 日 第 35 回 「建国の父シェイク・ムジブル・ラーマンの人生と遺産」  
《駐日 Bangladesh 大使館と共催》 (オンライン開催)  
モンズルル・ホク 日バ協会顧問、プロトムアロ紙東京支局長

## 企業情報交換会:

2020 年

- (1) 7 月 16 日 第 15 回企業情報交換会 (オンライン開催)  
・福岡功慶 経済産業省南西アジア室長  
「Bangladesh 進出企業に対する補助金等の活用について」  
・安藤裕二 JETRO ダッカ事務所長 「Bangladesh 現地情報」  
・ブイヤン・ジュン氏 New Vision Solutions Ltd.  
「Bangladesh 人から見たコロナウイルスの感染の現状と展開」  
・アンジャン・ダス氏 Kaicom Solutions Japan Co. Ltd.  
「日本企業のコロナ環境の中での経営の留意点」
- (2) 8 月 19 日 第 16 回企業情報交換会 (オンライン開催)  
・伊藤直樹 駐 Bangladesh 大使  
「コロナウイルス感染の現状と Bangladesh との経済関係」  
・安藤裕二 JETRO ダッカ事務所長 「Bangladesh 現地情報」  
・石黒崇 小島衣料 代表取締役 「Bangladesh 工場の状況について」
- (3) 9 月 16 日 第 17 回企業情報交換会 (オンライン開催)  
・安藤裕二 JETRO ダッカ事務所長 「Bangladesh 現地情報」  
・小林宏行 グリーンホスピタルサプライ(株)専務取締役  
「Bangladesh における COVID-19 感染拡大状況と医療体制の現状」

・モハメド・ハッサン・アリフ バングラデシュ首相府高官 (Joint Secretary)

「バングラデシュの経済特区の開発状況と新たな制度について」

(4) 12月9日 第18回企業情報交換会 《JETRO、JICA、UNIDO 後援》

(会場:TKP ガーデンシティ渋谷+オンライン)

・西村英丈 日バ協会理事

「経済産業省南西アジア室と日バ協会との今後の協力について」

・安藤裕二 JETRO ダッカ事務所長 「バングラデシュ現地情報」(Zoom 参加)

・坂本威午 JICA 南アジア部長 「バングラデシュへの ODA について」

・福岡功慶 経済産業省南西アジア室長

「経済産業省南西アジア室のバングラデシュにおける取組」

・橋和哉 本田技研工業(株)二輪事業本部 SCM 部企画管理課主事

「バングラデシュでの事業開設時の課題と対応」

・パネルディスカッション:「今なぜ、バングラデシュなのか?そしてネクストバングラデシュとは?」

パネリスト: 渡辺正人 日バ協会会長(元駐バングラデシュ特命全権大使)

安藤裕二 JETRO ダッカ事務所長 (ダッカより Zoom 参加)

平石公宣 日バ協会理事企業委員長、丸久(株)社長

神山秀夫 日バ協会理事(元 OP-Seed Co.(BD)社長)

2021 年

(5) 3月17日 第19回企業情報交換会 (オンライン開催)

・安藤裕二 JETRO ダッカ事務所長 「現地情報とダッカ日本商工会の活動概要」

・菅原清行 外務省南西アジア課長

「コロナ対策、治安、最近の二国間関係などについて」

・小早川和寛 バングラデシュ日本通運(株)社長

「バングラデシュの通関、関税等について」

・宇佐見幹 経済産業省南西アジア室 係長

「経済産業省のバングラデシュにおける取り組み—後発開発途上国の卒業について」

## 2. メール・マガジンの発行

2020年

第70号(4月号)

- ・巻頭言「コルカタからバングラデシュ文学を眺めて」 東京外国語大学大学院教授 丹羽京子
- ・特別寄稿「ハシナ首相が見せた娘の顔」—ムジブル・ラーマン生誕100周年シリーズ No.4—  
駐バングラデシュ特命全権大使 伊藤直樹
- ・現地便り「令和初 それいけ 春祭り」(その1) ダッカ日本人会春祭り担当理事 上村修
- ・青年海外協力隊 OB 便り「私にちょうだい—帰国直前にスーツケースを盗られて—」  
ジャマルプール県村落開発普及隊員 酒井強志

第71号(5月号)

- ・巻頭言「新型コロナウイルスに関する杞憂と本会の刷新」 会長 大橋正明
- ・会員寄稿「ボンゴ ボンドウの手は熱かった」  
—ムジブル・ラーマン生誕100周年シリーズ No.5— (株)日本工営顧問 桐生稔
- ・現地便り「令和初 それいけ 春祭り」(その2) ダッカ日本人会春祭り担当理事 上村修
- ・理事寄稿「ベンガルのムスLEM村落社会研究と原忠彦教授の業績」(連載その2)  
—南アジアの民族誌的研究を振り返る—  
東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所教授 外川昌彦

第72号(6月号)

- ・巻頭言「マゴ—(お母さん):母の日に思うこと」  
京都大学 東南アジア地域研究所連携教授 安藤和雄
- ・会員証言「1971年3月にダッカで見たムジブル・ラーマン」  
—ムジブル・ラーマン生誕100周年シリーズ No.6— 福島応援プロジェクト代表 長田満江
- ・企業便り「バングラデシュの事業成長に向けた現地スタッフの日本研修」  
(株)サンテック バングラデシュ支店長 赤城裕一
- ・文化便り「もし君の呼びかけに誰も答えなくても ひとりで進め」  
—映画『タゴール・ソングズ』公開に寄せて— 映画監督 佐々木美佳

第73号(7月号)

- ・巻頭言「新型コロナウイルス(COVID-19)の影響下でダッカに滞在して」  
—考えていなかったより進んでいるジェネリックの先進国バングラデシュ—  
監事 伊藤隆史

- ・会員証言「西パキスタンから見たムジブル・ラーマン」  
     —ムジブル・ラーマン生誕 100 周年シリーズ No.7—福島応援プロジェクト代表 長田満江
- ・会員寄稿 ルバイヤット・ホエシン監督作品『メイド・イン・バングラデシュ』  
     神戸女学院大学文学部英文学科准教授 南出和余
- ・会員寄稿「3 年間の勤務を終えて」(連載その1)                      ダッカ日本人学校 前校長 島村雅彦
- ・理事寄稿「バングラデシュの独立プロセスと日本の関わり」  
     —バングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.1—  
     はじめに: 日本とベンガルの交流史—    理事 太田清和

第 74 号(8 月号)

- ・巻頭言: 新旧会長よりのご挨拶
  - 1.「離任のご挨拶」    前会長 大橋正明
  - 2.「就任のご挨拶」    新会長 渡辺正人
- ・会員証言「ムジブル・ラーマンのダッカ帰還」  
     —ムジブル・ラーマン生誕 100 周年シリーズ No.8—  
     NPO 法人 ユーラシア 21 研究所 理事長 吹浦忠正
- ・会員寄稿「3 年間の勤務を終えて」(連載その2)                      ダッカ日本人学校 前校長 島村雅彦
- ・理事寄稿「建国 50 周年を迎えるバングラデシュとの奇縁」                      関東学院大学講師 石坂貴美
- ・理事寄稿「バングラデシュの独立プロセスと日本の関わり」  
     —バングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.2—  
     東パキスタンと日本: 分離独立から 1950 年代—    理事 太田清和

第 75 号(9 月号)

- ・巻頭言「ことばの歴史はベンガルの歴史」    東京外国語大学大学院教授 丹羽京子
- ・現地便り「バングラデシュ南部避難民(ロヒンギャ難民)キャンプの現状と赤十字の支援」  
     日本赤十字社国際部 国際救援課救援係長 片岡昌子
- ・会員便り「バングラデシュの村における開かれた家族生活—タンガイル県の事例から—」  
     名古屋大学特任助教授 杉山あい
- ・理事寄稿「ムジブル・ラーマンの公賓訪日をめぐる驚き」  
     —ムジブル・ラーマン生誕 100 周年シリーズ No.9—    理事 太田清和
- ・理事寄稿「バングラデシュの独立プロセスと日本の関わり」  
     —バングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.3—  
     東パキスタンと日本: 1960 年代—    理事 太田清和

第 76 号(10 月号)

- ・巻頭言「バングラデシュの小農の工夫が後押ししたチェーン除草」  
京都大学 東南アジア地域研究所連携教授 安藤和雄
- ・会長寄稿「堀口松城顧問より本協会に寄付」  
会長 渡辺正人
- ・会員寄稿「ムジブル・ラーマン政権の課題と問題点—新国家建設に向けて—」  
ムジブル・ラーマン生誕 100 周年シリーズ No.10— 福島応援プロジェクト代表 長田満江
- ・会員寄稿「バングラデシュの新型コロナウイルス感染症への対応とムスリム社会」  
東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所教授 外川昌彦
- ・会員便り「コロナ禍におけるローマのバングラデシュ人街の様子」  
在イタリア大使館 専門調査員 会員 清野佳奈絵
- ・理事連載「亜大陸をめぐるパワーゲーム」  
—バングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.4—  
理事 太田清和

第 77 号(11 月号)

- ・巻頭言「バングラデシュの睡蓮と日本の菊花」  
監事 伊藤隆史
- ・特別インタビュー「シャハブッディン・アーメド新駐日大使に訊く」  
編集部
- ・寄稿「モハンマド・キブリアさんのこと」  
美術家 柳澤紀子
- ・理事連載「バングラデシュの独立に寄り添う(1970 年 11 月):ヤヒア訪中とサイクロン/高潮」  
—バングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.5—  
理事 太田清和

第 78 号(11 月特集号) 特集『サイクロン/高潮の被災と救援』(1970 年 11 月)

- バングラデシュの独立に寄り添う—
- ・特別寄稿「私はボラ島でサイクロン/高潮を経験した」  
駐日バングラデシュ大使 シャハブッディン・アーメド
- ・寄稿「日本赤十字社による東パキスタン・サイクロン/高潮被災救援」  
日本赤十字社事業局国際部 大山啓都
- ・寄稿「この世で悩み苦しむ人たちのお役に立てるのであれば」  
佛所護念会教団
- ・寄稿「オイスカの東パキスタン・サイクロン被災への支援活動」  
公益社団法人オイスカ 副理事長 廣瀬道男
- ・サイクロン/高潮被災 新聞報道選集  
50 周年記念編集部

第 79 号(12 月号)

- ・巻頭言「ノズルルの故郷チュルリヤ村」 東京外国語大学大学院教授 元理事 丹羽京子
- ・現地便り「カチプール・メグナ・グムティ橋第2橋建設および既存橋改修事業について」  
(株)大林組ジャムナ JV 工事事務所 所長 川崎隆
- ・会員寄稿「就学前教育から見るバングラデシュの教育熱」 名古屋女子大学 講師 門松愛
- ・会員寄稿「バングラデシュの人々にとってボンゴボンデウとは？」  
ームジブル・ラーマン生誕 100 周年シリーズ No.11(完)ー 元理事 渡辺一弘
- ・理事連載「バングラデシュの独立に寄り添う(1970 年 12 月):パキスタン総選挙と中国をめぐる動き」  
ーバングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.6ー 理事 太田清和

2021 年

第 80 号(2021 年新年号)

- ・巻頭言「新年の辞:今年の日バ協会の活動」 会長 渡辺正人
- ・特別寄稿「新年の辞」(英文本文と和訳) 駐日バングラデシュ大使 シャハブッディン・アーメド
- ・会員寄稿「フセイン営子のダッカ便り(1):コロナ禍を見つめて」 会員 神部フセイン営子
- ・寄稿「ストリートチルドレンの大逆転劇」ーエクマツラの 17 年間の取組みー  
エクマツラ代表 渡辺大樹
- ・理事連載「バングラデシュの独立に寄り添う(1971 年 1 月)  
:Post-election Struggles の火蓋が切られる」  
ーバングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.7ー 理事 太田清和

第 81 号( 2 月号)

- ・巻頭言「バングラデシュのジャガイモ生産量は世界第 7 位」  
京都大学東南アジア研究所連携教授・会員 安藤和雄
- ・追悼文「早川元枝様を偲んで」 会長 渡辺正人
- ・会員寄稿「バングラデシュ独立と美術作家たち(1)ームルタザ・バシール」  
福岡アジア美術館学芸員・会員 五十嵐理奈
- ・会員寄稿「フセイン営子のダッカ便り(2):コロナ禍を見つめて」 会員 神部フセイン営子
- ・理事連載「バングラデシュの独立に寄り添う(1971 年 2 月):憲政対話から軍事行動へ」  
ーバングラデシュ独立・国交 50 周年シリーズ No.8ー 理事 太田清和

第 82 号( 3 月号)

- ・会長追悼文「野呂元良元理事と河合卓雄監事を偲んで」 会長 渡辺正人
- ・監事追悼文「河合監事を偲んで」 監事 伊藤隆史
- ・現地便り「 Bangladesh と三井物産のパートナーシップ」  
三井物産ダッカ支店長 シャリフル・アラム
- ・寄稿「新しい国際協力 x 地方創生のかたち」 宮崎大学客員教授 田坂真之介
- ・理事連載「 Bangladesh の独立に寄り添う(1971 年 3 月):非暴力非協力運動と武力弾圧」  
ー Bangladesh 独立・国交 50 周年シリーズ No.9ー 理事 太田清和

第 83 号( 3 月特集号)特集『非暴力非協力運動と武力弾圧』ー Bangladesh の独立に寄りそうー

I. 祝辞

ハシナ首相宛『ムジブ年及び独立 50 周年の祝辞』 理事 早川 鎮

II. 回顧・証言

- 1) 独立前後の Bangladesh ー 歓喜と懸念ー(その1) アジア経済研究所 名誉研究員  
会員 桐生 稔
- 2) 武力弾圧の記憶 理事 七田 央
- 3) Bangladesh 独立戦争のはじまりの頃の追憶(その1) NHK ベンガル放送 出演者  
アンワールル・カリーム
- 4) 亡夫 奈良毅と日本ベンガル友の会(その1) 会員 奈良 安紀子

III. 論文・論考

- 1) Bangladesh の独立宣言と解放戦争におけるシェイク・ムジブの求心力  
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授 前理事 外川 昌彦
- 2) ムジブル・ラーマン:逮捕までの最後の3日間 理事 太田 清和
- 3) 若狭丸の航跡とチッタゴン春の陣 理事 太田 清和

IV. 新聞報道選集(別冊)

### 3. 日本バングラデシュ協会 2020 年度会議一覧表

I	社員総会		
1	第 7 回社員総会	2020 年 7 月 25 日	TKP 品川カンファレンスセンター
II	第 7 期 理事会		
1	第 1 回理事会	2020 年 6 月 10 日	早稲田奉仕園 + オンライン
2	第 1 回臨時理事会	2020 年 7 月 25 日	TKP 品川カンファレンスセンター
3	第 2 回理事会	2020 年 9 月 2 日	早稲田奉仕園 + オンライン
4	第 3 回理事会	2020 年 10 月 6 日	早稲田奉仕園 + オンライン
5	第 4 回理事会	2021 年 1 月 6 日	オンライン
6	第 2 回臨時理事会	2021 年 2 月 28 日	電磁的賛否確認
7	第 3 回臨時理事会	2021 年 3 月 23 日	電磁的賛否確認
III	第 7 期 事務執行定例会		
1	第 1 回事務執行定例会	2020 年 6 月 3 日	渋谷区勤労福祉会館
2	第 2 回事務執行定例会	2020 年 7 月 13 日	渋谷カフェミヤマ+オンライン
3	第 3 回事務執行定例会	2020 年 9 月 30 日	オンライン
4	第 4 回事務執行定例会	2020 年 11 月 4 日	オンライン
5	第 5 回事務執行定例会	2020 年 12 月 15 日	オンライン
6	第 6 回事務執行定例会	2021 年 2 月 16 日	オンライン
7	第 7 回事務執行定例会	2021 年 3 月 19 日	オンライン